

薬学部(創薬学科)の3つのポリシー

【 学士(薬科学) 】

大学の目的 (学則 第3条)	学部(学科)の教育研究上の目的 (学部規則等から抜粋)
<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育および研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。</p>	<p>薬学部では、薬の理解と薬学研究を通じて、人類の健康、福祉、衛生及び健全な社会環境の保全に貢献できる人材を育成することを目的とする。 創薬科学科では、広い視野と高度な知識と研究力を持ち、創薬・ライフサイエンス・和漢薬を含めた東西医薬の関連分野を中心に活躍する研究者・技術者などを育成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【卒業認定・学位授与方針】 創薬科学科では、人類の健康、福祉、衛生及び健全な社会環境の保全と向上に貢献できる人材を育成するために定められた教育課程で、十分な学修成果を上げ、以下に示す「幅広い知識」、「専門的学識」、「問題発見・解決力」、「社会貢献力」、「コミュニケーション能力」を身に付けた者に学士(薬科学)を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 創薬科学科では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる5つの能力を学修するため、教養教育科目及び専門教育科目を体系的に学修する。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・4年間の学修を通じて薬学研究者として必要な教養と物理、化学、生物、医療の専門分野での学識を深めるためのカリキュラムを編成する。</p> <p>・1年次においては、教養教育の卒業要件単位を修得するための講義・実習・実技科目を主体とし、専門分野の導入教育も並行して実施する。</p> <p>・2年次においては、物理、化学、生物系の基礎科学を主とした講義科目と物理、化学系の基礎薬学実習を実施する。</p> <p>・3年次においては、生物、薬剤、薬理、衛生、医療系分野を主とした講義科目と基礎薬学実習、及び総合薬学演習を実施する。</p> <p>・4年次においては、卒業研究を主として実施する。</p>	<p>【入学受入れ方針】 薬の理解と薬学研究を通じて、人類の健康、福祉、衛生及び健全な社会環境の保全に貢献できる人材を育成するに当たり、創薬科学科では、次の人材を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬学関連の研究分野で国際的に活躍したい人</li> <li>・新薬の研究に携わることで人類と社会に貢献したい人</li> <li>・東西医薬学の融合による医薬品の創出を目指す人</li> <li>・疾患に関連する現象や物質に対して興味と研究心を有している人</li> <li>・生体メカニズムの解明やそのための新しい方法論の開拓に挑戦したい人</li> </ul> <p>【入学選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般選抜(前期日程) 大学入学共通テストでは、基礎学力を評価する。 本学では、「数学」及び「理科」を課して、数学力、理解力、応用力、表現力、科学的思考力等を評価する。</p> <p>一般選抜(後期日程) 大学入学共通テストでは、基礎学力を評価する。 本学では、「小論文」及び「面接」を課して、論理的思考力、文章表現力、学習意欲、適性等を評価する。</p> <p>特別入試(学校推薦型選抜、帰国生徒選抜) 本学では、「書類審査」、「小論文・適性検査」及び「面接」を課して、学習到達度、科学的思考力、文章表現力、学習意欲、適性等を評価する。</p> <p>私費外国人留学生選抜 日本留学試験では、日本語力、理科及び数学の基礎的学力を評価する。 本学では、「数学」及び「理科」を課して、数学力、理解力、応用力、表現力、科学的思考力等を評価し、「面接」により学習意欲、適性等を評価する。</p> <p>【入学前に学習すべきこと】 薬学は、広範で多様な学問分野から成っているため、入学までに、化学、物理学、生物学、数学、語学の基礎学力を付けておくことが望ましい。</p>
【学修成果の到達目標】	【学修内容、学修方法および学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>幅広い知識</p> <p>【学修成果】 人文科学・社会科学・自然科学・健康科学の諸分野を学際的に捉え、多様な文化的・歴史的背景を持った地域や社会を理解し、行動する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教養教育科目の卒業要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性に基づいた判断ができる人材を育成するため、教養教育において人文科学・社会科学(語学を含む)の講義科目を編成する。また、薬学専門教育への橋渡しとして、自然科学・生命健康科学系の理系基盤教育を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義科目ではアクティブラーニングを導入し、理解度の向上を図る。語学では少人数授業を、また一部の理系基盤教育では理解度に応じたクラス編成を行い、学修効果を高める。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 教養教育を受けるにふさわしい基礎知識を身に付けている。 教養教育に対する深い関心と学ぶ意欲を持っている。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 物理学、化学、生物学等に基づき、和漢薬を含む伝統医薬学から先端薬学までの創薬科学に関する幅広い学識基盤を構築・展開し、医薬品創出を目指した研究・開発に取り組むために必要な創造的思考力と実験技術等を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 専門教育科目(講義及び実習)の卒業要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 実践的な薬学を学ぶために必要な、物理、化学、生物系の基礎科学教育を重点的に実施する。その学修成果を土台とし、薬剤、薬理、衛生、医療系講義を体系的に編成する。各専門分野の実習では、実地に基づく、より深い学修と実験技術の修得を行う。</p> <p>【学修方法】 通常講義科目では視聴覚教材を随時使用し、理解度の向上を図る。また、授業外学修を推進し、自ら学ぶ力を養う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 薬学を学ぶために必要な基礎知識、語学力、理解力、論理的思考能力を身に付けている。</p>
<p>問題発見・解決力</p> <p>【学修成果】 自然現象に対する強い知的好奇心・探究心を持って薬学関連分野の課題に取り組み、学術情報の収集・分析及び実験等の研究活動を通して得られる結果を論理的に考察し、解決に向けて議論・発表できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 総合薬学演習及び卒業研究において、学修成果に挙げる能力を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 学修した専門知識を最大限活用して、医薬品に関する調査・分析を行う総合薬学演習を実施する。また、卒業研究では、各研究室において学生ごとに課題を設定し、その解決に向けて研究活動を行う。得られた成果の発表会を行うことで、効果的なプレゼンテーションや質疑応答に必要な技術・能力を修得する。</p> <p>【学修方法】 研究室に所属し、教員の指導の下、学生が主体的に調査・分析・実験等を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 発表会を実施し、発表と質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 薬学関連分野の課題に対し、調査・分析・実験等により解決策を導き出す意欲を持っている。</p>
<p>社会貢献力</p> <p>【学修成果】 医療人としての規律、倫理等を守り、患者及び医療に関わる全ての人々の立場を理解しながら、創薬科学研究者として果たすべき役割を認識し、地域と国際社会に対して責任ある行動をとる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 富山のくすり学、薬学経済等を学修し、社会で責任ある行動をとることの重要性を理解していること。</p>	<p>【学修内容】 薬学概論では、初年次教育として研究室訪問や製薬企業見学を行う。基礎薬学実習では、グループでの活動を通して責任感や協調性など医療人として必要な社会性を修得する。また、社会人による講義を実施し、医療産業で働く人々の実情を知る機会を設ける。</p> <p>【学修方法】 通常の講義や各種実習、及び学外での体験学修を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 レポート等により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 専門的知識と技術を基にして、社会に貢献できる研究者を目指す意欲を持っている。 新薬の研究に携わることで、人類と社会に貢献する意欲を持っている。</p>
<p>コミュニケーション能力</p> <p>【学修成果】 他者との積極的な意思疎通を図ることで、豊かな人間関係を築きながら自己の成長へとつなげることに努め、異なる考えや言語文化を有する人々の立場を理解し、誠実かつ柔軟なコミュニケーションをとる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 卒業研究において、指導教員及び学生(大学院生及び留学生を含む)と良好な人間関係を構築していること。</p>	<p>【学修内容】 講義や実習での同級生とのコミュニケーションを通して、友人や仲間と豊かな人間関係を構築しながら、学識向上を図る。また、各研究室での研究活動を通して、指導教員及び他の学生(大学院生や留学生を含む)との協力関係や信頼関係を深め、業務遂行上必要なコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>【学修方法】 アクティブラーニング形式の講義、実習、総合薬学演習におけるグループワーク、及び研究室での研究活動を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験又は発表会を実施し、その成果を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 多様な社会の中で、相手に働きかけて意思の疎通を図り、豊かな人間関係を築きながら自己を成長させていく意欲を持っている。</p>